

◆3 節 日本の産業政策

○戦後の日本の産業政策はおおよそ以下の4つのタイプに分けて考えられる

産業政策	年代	特徴
①傾斜生産方式	1945～50	政府による直接統制価格
②生産合理化計画	1950～60	直接統制から間接統制への変化 大企業への融資・税制優遇
③官民協調政策	1960～70	企業の合併や提携 市場の役割を重視した自由化に変化
④ビジョン政策	1970～	自由主義の進行・政府の役割の縮小化

◆4 節 中国の開発戦略

○産業育成政策を時期区分すると、大きく4つに分けられる

<中国の開発戦略>

時期区分	年代	特徴
計画経済期	1979～86	供給不足の解消・産業構造調整・重工業→軽工業
計画・市場経済期	1986～92	市場経済化・統一市場の形成・基礎産業の整備
市場経済期Ⅰ	1992～2001	国際競争の重視・産業構造合理化・過剰設備の整理
市場経済期Ⅱ	2001～	グローバル化・多国籍企業との競争・外資導入 etc

<中国の経済システム>

- ◇ 計画経済…生産、流通、消費のすべてを政府が直接統制するシステム
- ◇ 計画・市場経済…生産を政府が統制し、消費を民間が受け持つシステム
- ◇ 市場経済…全てが市場の価格競争により決定されるシステム

⇒市場経済期Ⅱで WTO 加盟以降、自由化、民営化、企業のグローバル化などがますます加速した

## ◆5節 東アジア型成長モデルとアジア通貨危機

○東アジアの成長を象徴するのは東アジア型モデルである輸出加工区の成功である

・アジアでの輸出加工区…地域を限定した開発であり、輸出に便利な場所が選定された  
→ASEAN 諸国は多国籍企業を誘致するために以下の三つの政策をとった

- ① 自国に直接投資した外国資本において 100%外資を許可する
- ② 為替レートを減価し、自国通貨にする→国際競争力を高める
- ③ ローカル・コンテンツ規制の比率を低める

⇒輸出競争力のある多国籍企業のみが輸出加工区へ進出した

しかし、ボトルネックが発生することが多い

### 【原因】

- ① 人的資源の不足
- ② 不十分なサポーター・インダストリー
- ③ インフラの未整備

むすび

### 【反省点】

- ・短期資金の移動の自由化が、経済発展段階の低い国では早すぎた(構造調整政策面)
- ・韓国の経済危機、日本の景気停滞、ボトルネック問題(産業政策面)

※一方、中国はこの時期に自動車産業政策と外資導入政策を実施し、高成長を継続し、アジア経済の回復に貢献した

→企業間競争、市場競争が基本的な考え方になっていった

しかし、競争から淘汰される人々も多く、所得格差の問題も大きくなってきた



貧困削減への仕組みが開発で大きく取り上げられるようになった